

～さあさあ作ってみましようか～

- M「作ってみた特集リターンズです。さあ！作るよ！」
 F「ええっと、やっぱり作らないとだめなんですかね」
 M「当たり前じゃない！この特集のコンセプトは、『図書館にある本であんなものやこんなものは本当に作れるのか？』を実証することなんだから」
 A「はあ」
 M「本の横に本当に作ったものを展示すれば信ぴょう性が増して、貸出にもつながるでしょー？というわけで、作るものをわたくしが指示します。Fちゃんは、私が巻頭で紹介してる『魔術師のための創作Book』から妖精の杖を作るのだ！」
 F「え…っこれ？出来上がりサイズ2mって、どこに置くんですかっ」
 M「棚の上に吊り下げればいいんじゃない？」
 F「YAの棚をこれ以上おかしくしないでください！大体Mさんが紹介しているんだから自分で作ったらいいでしょ」
 M「だって出来そうな気がしないんだもの。でも作れるところを証明して欲しいのよ～。そうだ、Aさんはお裁縫とかどうかしら？」
 A「お、お裁縫はあんまり…」
 M「ほらこれ『ディズニーミニチュアドレス』から白雪姫のドレス。棚にも飾れるし、可愛いよ～」
 A「可愛いですけど、細か…」
 M「ジャスミンとかシンデレラでもいいよん」
 A「いや、そういう問題ではなく」
 M「やっぱりはんだ付けがしたいかな？」
 A「そういう問題でもなく」
 F「さてはMさん。私たちに無理難題を言って、自分は簡単なモノを作る気でしょ？」
 M「ふふーん。私は段ボールで作る自販機を作るのだー！」
 F「うわ、それって小学生向けの工作じゃないですか！ズルい！」
 M「早い者勝ち」
 F「純真なヤングたちに大人のそんな姿を見せてもいいんですかい」
 M「…それもそうね。じゃあ完成度の高い自販機を作るわ」
 A「あ、私はお裁縫なのでしょうか…(涙)」
 F「妖精の杖…？まじで…？」
 M「さて、特集期間中に棚に作品が並ぶかは…？？？」



←ブログやってるよ！<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

ホンダラケ

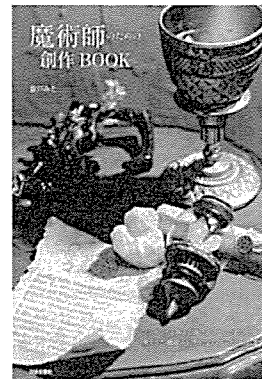
H31.2.1

さてさて初心に帰ってホンダラケ創刊号の最初の特集をやってみよう！
 作品の出来不出来は、本のせいにしちゃおうっかなー。

図書館の本で作って見たリターンズ

魔術師のための創作BOOK

倉戸みと：著 日本文芸社 2017年刊 750/17



魔法陣・・・羊皮紙・・・鉱石標本……。そうそう物語に出てくる魔術師ってこういうものを持っている気がする。いかにも魔術師が持っていそうな小道具がなんと自作できるという、なんとも楽しそうな本です。しかし！自作できるといっても、工程は本格的なので、日数と技術と資金が少々必要です。100均で手に入りそうなものでもちょっと細工して塗装すればそれっぽく見えるものなんですわ。掲載の小道具を制作する姿がすでに魔術師っぽいんじゃないかと思います。魔術師になるのも大変だ。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「スポーツ」。
さすが学生さん、冬でも熱いですね！

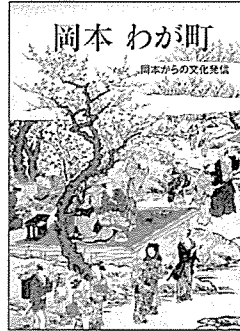
岡本わが町 岡本からの文化発信

中島 俊郎：編 2015年刊 神戸新聞総合出版センター 216.4/15

梅の咲く高級住宅街として知られる神戸市東灘区、岡本地区。

本書はその岡本地区の住民が「住民目線で」地区の歴史や魅力を掘り下げ、「大きな歴史」に埋もれがちな小さい地域の文化や歴史、人の繋がりとといったものを後世に伝えようとしている。

P.N. 手羽崎 西羽 (高校2年生)



ホンダラケポストの投稿を紹介するコーナー

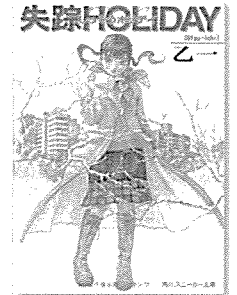
おすすめ本：『しあわせは子猫のかたち』乙一
短編ですが、表題作が大好きです。哀しみの中にも「生」を喜び肯定する空気に泣く。
(P.N.アダンソンハエトリ さん)

投稿ありがとうございます！

こちらのおすすめ作品、図書館の本です『失踪 HOLIDAY』『失はれる物語』という本に収録されています。私も読みましたが、おすすめの「空気感」にしんみりし、その後の怒涛の展開におどろかされました。

その他、乗り物特集の時ですね、ホンダラケの棚にあった『追い風ライダー』を借りてくれたというアダンソンハエトリさん。

「とても面白かったです。登場人物は皆いい大人なのですが、青春してるなァと思いました。そして、作者の自転車への愛が伝わってきました」とのこと。展示で素敵な本と出会えた報告を聞くととても嬉しいです。ありがとうございました！



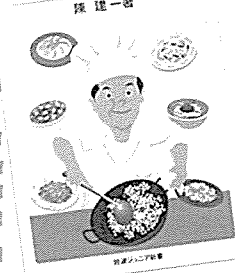
「失踪 HOLIDAY」F/オツ 2001年 角川書店

リサイクル予備軍～なぜ君は借りてもらえないのか～

父の仕事を経営 自分の味をつくる

陳 建一：著 岩波書店 2006年刊

父の仕事を経営
自分の味をつくる



289.2/チン

この本は伝記コーナーにあったのですが、借りられない理由は…なんでしょうか、最近のYA世代にとっては陳建一さんってあまりなじみがないのかも？テレビ番組「料理の鉄人」で中華の鉄人として活躍される姿を私もうっすらと覚えているぐらいですから…。「中華の神様」といわれた父、陳建民のもとで修業し、お店を引き継いだ陳建一さん。父と比べられ悩みながらも底抜けに明るいキャラクターで困難を乗り越えていきます。お客さんに喜んでもらうには、自分がおいしいと思うものをつくること。自分が幸せでいること。仕事に対する陳さんの真摯な姿勢や考え方には共感するところがたくさんあります。仕事について考え始めた人や、社会人が読んでためになる本です！

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『蜜柑』 芥川龍之介 著

げみ：絵 立東社 2018年刊

私は昂然と頭を挙げて、まるで別人を見るようにあの小娘を注視した。

ある曇った冬の日暮れ。横須賀発の汽車に乗った「私」の目線から、この短い物語が始まります。「私」の前にあらわれた、二等客車に三等切符をにぎりしめて座っている「小娘」。霜焼けの手に大きな包みを抱えた、いかにも田舎者らしい見た目の小娘のすべてが気に食わなかった「私」ですが、汽車がトンネルを抜けた瞬間、あることが起こり…。「私」が「退屈な人生をわずかに忘れることが出来た」と語る、その出来事とは？

あざやかな蜜柑の色がぱっと目の前にはじけるようなお話です。美しい絵と共に楽しみください。



F/アク